「…はぁ」

「今日も…先輩から電話かかってこない…やっぱり、寝ちゃったのかな…」

「部活で疲れて寝落ちしちゃうかもって言ってたけど…
こう毎日電話ないと、流石にちょっとさみしいな…」

「…あ。…もしかして、私じゃない女の子と電話してる、とか…？」

「…ううん、先輩に限って浮気なんて…
でも、何か用事でもあるのかって聞いてもはぐらかされたし…」

「…はぁ、気になって眠れない…」

「…明日、学校で聞いてみよう。大丈夫、先輩が浮気なんてしてるわけない、よね…」

「（えっと…先輩はこの時間、いつもこの辺でお弁当食べてるはず…）」

「（あ、いた…）」

「せんぱ…っ！？」

「（先輩、スマホで何か見てる。
もしかして、本当に他の女の子と連絡を…うぅん、そんなことないはず

なんだろ、あの感じ…先輩が見てるのは動画かな。
あ、あのサムネ見たことがある。確か…ＡＳＭＲ動画…だったっけ？）」

「せ、先輩っ…」

「休み時間にすみません。その、聞きたいことがあって…いいですか？」

「はい…あの、最近…先輩が夜寝落ちちゃうのって、もしかして…その動画が原因、とか？」

「…やっぱり、そうなんですか。
ストレス解消に聞き始めたらハマっちゃったんですね…

あ、違っ…責めているわけではなくて…」

「ただ…そういうことなら、私にも相談してほしかったな、と思ったんです。
私、一応先輩の彼女、ですし…」

「あの…先輩さえ良ければ、後でお家に行ってもいいですか？」

「っ違います、変な意味じゃなくて…！
その…私なら、先輩の安眠に協力できると思ったんですっ…」

「ほ、本当です…！とにかく今日、準備してから先輩の家に行きますね」